

I ミニチュア・インキュナブラ

15 世紀に作られた印刷本(インキュナブラ)のうち小型のものをミニチュア・インキュナブラ(以下 MI)と呼ぶ¹⁾。大きさの統一的な基準は存在しないため、本研究では筆者による先行研究²⁾と同じく、判型が 16 折版以下で、外側が 120mm×85mm 以下もしくは印刷面が 82 mm×56 mm 以下とした。

MI はインキュナブラの中でもサイズが小さいために、出版傾向に独特な面が見られる。筆者の先行研究^{2) 3) 4)}では MI は 191 タイトル見つかり、その内容はキリスト教に関するものがほとんどであるが、聖書は含まれていない。活字の大きさは時代とともに小さくなっている。印刷地としてはヴェネツィアが最多であり、印刷タイトル数が多く、挑戦的な印刷者が印刷している。そのため、特定の対象読者を意識していると考えられる。

II 研究の目的と方法

A. 研究の目的

MI はサイズが小さいので印刷に何らかの工夫があったと考えられる。そこで、本研究では MI 印刷に用いた技術や工夫を明らかにする。

調査対象としては最多の 12 タイトルの MI を印刷しているヴェネツィアの印刷者、Johann Emerich を選んだ。Emerich はキリスト教に関するものを多く印刷しており、MI のすべてはキリスト教に関するものである。その中でも MI の時祷書が 8 タイトルを占めている。時祷書には内容がある程度定まっているため、MI 同士の比較がしやすい。Emerich の印刷した MI の特徴について、筆者の先行研究では時祷書は挿絵が入った豪華なものであり、聖務日課書は挿絵がなく 2 段組になっているなどの特徴があることがわかっている³⁾。

まず第 1 の課題は組版の仕方である。ハーフシート(半裁紙)に少数のページを印刷していたのか、フルシート(全紙)に一度に多くのページが印刷していたのか調べる。例えば 32 折版はハーフシートに 16 葉を印刷していたのか、フルシートに 32 葉を印刷していたのかということである。

第 2 の課題は、時祷書の内容は同じかということである。Emerich は毎年のようにローマ式の時祷書を印刷している。その内容はいつも同じなのか、版ごとに異なるのかを調べる。

第 3 に改行位置や改ページ位置の調整をしているのかである。調整をしているなら、他のページと略字や縮約形の数が異なると考えられる。

B. 研究方法

本研究では上記の 3 つの課題を解決するため、目録の記述と電子複写物をもとに調査した。目録はインキュナブラの総合目録 Gesamtkatalog der Wiegendrucke(GW)⁵⁾と Incunabula Short Title Catalogue (ISTC)⁶⁾、各図書館の蔵書目録⁷⁾を用いた。電子複写物は筆者の先行研究³⁾で入手したものである。

第 1 の課題(組版)について、目録によって折丁の詳細を見ることで調査する。もとに判型と校合式を調査した。判型はフルシートを何回折って折丁を作るように組版をしたかである。例えば印刷した紙を 1 回折って 2 つ折りにして折丁を作るなら 2 折版ということになる。校合式はどのように折丁を並べることで書物が構成されているかである。例えば、ある本が a から v まで 20 種類(j と u は存在しない)の折丁で作られており、それぞれの折丁は 8 葉ずつで構成されているとすれば、校合式には a-v⁸⁾と書く。

第 2 の課題(内容)について、全ページ画像を入手できた 3 つの版(第 1 表の h02、h06、h07)の内容を比較した。h07 は全体の 1 割程度しか現存していない不完全なものを入手したが、現存する部分は全て見た。また、内容だけでなく活字の配置やずれを詳細に比較することによって、同じ折丁が複数の版に使われているかを調べた。

第 3 の課題(改行の調整)を調べるために、全ページ画像を入手した 2 つの時祷書(h02、h06)の中でも改ページ位置がほぼ一致している折丁 h と、改ページ位置が大きくずれる次の折丁 i、改ページ位置を途中で一致させているその次の折丁 k にある略字と縮約形の数を数えた。略字と縮約形を用いて単語の一部または全部を置き換えることで、綴りを短くすることができる。数え方は先行研究^{3) 9)}を元にして、略字と縮約形の数を純粋に数えた。つまり、1 つの縮約形で何文字省略していても 1 つと数え、1 単語に 2 つの縮約形が用いられている場合は 2 つと数えた。

III 調査結果

A. 印刷時の組版

校合式を調べた結果が第 1 表である。版 ID は MI のそれぞれの版に筆者が付与したものである。最初のアルファベットはタイトルで、b が聖務日課書(Breviarium)、h が時祷書(Horae)、p が詩篇(Psalms)を示しており、数字は ISTC 番号の昇順に振った。出版年、判型、現存数、ISTC 番号は ISTC や GW を元にした。素材は個別資料ごとに異なる可能性があるものの、調査で分かっているものが紙か羊皮紙か示した。校合式

第1表 MIの校合式

| 版ID | 出版年 | 判型 | 現存数 | 素材 | ISTC 番号 | 校合式 |
|-----|--------------|------------|-----|-----|------------|--|
| b01 | 1494 | 16° | 3 | 紙 | ib01122950 | [a ⁸]. [a ⁴] a-h ⁸ i ¹⁰ A-U ⁸ aa-tt ⁸ vv ¹² AA-FF ⁸ ✕ ¹² |
| b02 | 1492 | 16° | 1 | 紙? | ib01142600 | [a ¹⁰] a-f ⁸ -g ⁴ h-y ⁸ A-S ⁸ aabb ⁸ cc ⁴ ddee ⁸ |
| h01 | 1493 | 32° | 1 | 羊皮紙 | ih00373300 | a-v ⁸ |
| h02 | 1494 | 16° | 1 | 羊皮紙 | ih00377300 | a-v ⁸ |
| h03 | 1496 | 24° | 2 | | ih00378700 | ab ⁸ c-r ¹² |
| h04 | 1496 | 32° | 2 | | ih00379100 | a-v ⁸ |
| h05 | 1497 | 32° | 1 | 羊皮紙 | ih00383200 | a-v ⁸ |
| h06 | 1497 | 16° | 2 | 羊皮紙 | ih00388800 | a-v ⁸ |
| h07 | 1498 | 16° | 2 | 羊皮紙 | ih00395500 | a-v ⁸ |
| h08 | 1499 | 64° | 1 | | ih00399800 | a-v ⁸ |
| p01 | 1495/96 | 16° | 1 | | ip01054000 | |
| p02 | [about 1500] | 32° or 16° | 2 | 紙? | ip01058500 | a-z 7 ⁸ ※7は et の略字 |

は GW や蔵書目録などをもとに調査した。

紙に印刷された聖務日課書(b01、b02)は複雑な校合式が組まれているが、1つの折丁が何枚のから出来ているかを見ると、4葉から12葉で作られていた。フルシートの16折版ならば1つの折丁は16葉になるので、フルシートではなく、おそらくハーフシートに印刷したと考えられる。

時祷書(h01~h08)はわかっている限り全て羊皮紙に印刷されている。今回、判型の情報源としたGWでは羊皮紙で出来た本はサイズを元に判型を推定している。24折版のh03以外は、16折版、32折版、64折版のすべてが同じ校合式a-v⁸となっている。そのため、小さな羊皮紙に印刷していたとわかる。

B. 内容

1. h02 と h06 の比較

全体の画像が入手でき、全ページが残っているh02とh06の2つを1ページずつ比較した。この2つの版は挿絵やイニシャルは異なっている。挿絵を見ると、h02は8行前後の小さな挿絵を使っているのに対して、h06は全ページ大の挿絵を使っている。だが、いずれも全体はカレンダーと6つの章でできており、各章のタイトルも並び順も一致している。

さらに細かく両者の内容を比較した結果が第2表である。折丁aの1枚目の表面ならばa1rと、折丁bの2枚目の裏面ならばb2vと書く。

順序・文章が一致している部分は細かい差はあるけれども文章そのものが同じ順に並んでいる部分である。その中で特に大きな差は、例えば章の終わりの締め言葉がh02のi8rではfinis officum veate marie virginis tum coluetudinem romane curie とかかかれているの

に対してh06のi7rではfinisとのみに省略されている部分と、h02のr8vにGloria parti et filio et spiritui sancto.書かれている祈りが、同じ部分に当たるh06のr8rではGl'iaと省略されている部分である。その他に略語や縮約形の使い方、細かい単語や綴りも異なっている部分がある。

順序が違う部分は同じ文章が両方の時祷書に含まれているけれども、そのあられる順序が違う部分である。表においてはh02の中で現れた順に並べ、h06で同じ文章が現れる場所をその横に示した。独自の文章とは一方の時祷書にのみ現れる文章である。

第2表 h02 と h06 の比較

| | h02 | h06 |
|----------|---|---|
| 順序・文章が一致 | a1r-b6r b7v-s6r | a1r-b6r b7r-s6r |
| 順序が違う | b6v-b7v s6v-s8v t1r t5r-t6r t7r-v2r v3r-v6v v7v-v8r | s6v-s7v v5r-v7r b6v s7v-s8v s8v-t3v t3v-t7r t7r-t8r |
| 独自の文章 | t1r-t5r t6v-t7r v2r-v2v v6v-v7v v8v | t8r-v5r v7v-v8r ※v8vは白紙 |

折丁aからsまでのほとんど、つまり全体の約90%のページは同じ文章が同じ順序に並んでいた。残りの約5%が順序は違うが同じ文章であり、約5%が片方の時祷書に独自の文章である。

これらは暦の直後と、最後の章のみにある。さらに h02 にのみ挿絵(t5r)があるなど、2 つの版の間で多くの差がある。

H02 と h06 はどちらも同じローマ式時書なので差が少ないのは自然なことだが、刊記や標題紙、挿絵といった目立つ部分だけではなく、内容を変えて工夫していることがわかる。

2. h06 と h07 の比較

次に h06 と h07 を 1 ページずつ比較した。h07 は入手できた資料が不完全で、折丁 a 全てと折丁 b のうち最初の 6 枚しか残っていない。このうち、折丁 a の文章は同じで、活字の配置にずれがあった。

一方、折丁 b では現存するすべてのページにおいて、活字の種類や配置、欠けまで含めて 2 つの版で全く同じであった。赤い文字と黒い文字のずれ方は h06 と h07 で異なるものの、インキュナブラは 1 色ずつ印刷しており、赤黒の 2 色からなるページは 2 回に分けて印刷しているため、同じ版でも個別資料ごとにずれる。

ここから、2 つの版の折丁 a は別々に作られたものであるのに対して、折丁 b は同時に印刷されたということがわかる。

この折丁 b は組んだままの版を残しているのか、h06 を印刷したときにあまった折丁を h07 にも流用したのかのいずれかだと考えられるが、現在手元にある資料ではそのいずれかを特定することは出来ない。

C. 略字と縮約形

h02 と h06 の内容と改ページ位置を調べたところ第 3 表のようになった。ここで注目すべきは d から m までの折丁で改ページ位置が一致している部分があることである。

d から h までの 5 つの折丁では改ページ位置がほぼ一致している。5 つの折丁で 40 葉あるが、その間に 2、3 文字ずれていることが 3 回、3 単語ずれていることが 1 回あるのみである。

そして、折丁 i に入ると改ページ位置はずれ始める。h02 では i8v に 8 行の高さの挿絵が入れられて次の章が始まっている。h06 では i7r で i7v に全ページ大の挿絵が入れられて i8r から次の章が始まっている。つまり、h02 の折丁 i で 15 ページにわたっている内容を h06 の折丁 i では 13 ページにまとめている。

折丁 k に入ると、h02 では k3r に 8 行のサイズの挿絵が入れられてからその次の章が始まる。h06 では k2v で全ページ大の挿絵が入り、k3r からその次の章が始まる。つまり、同じ k3r から同じ章が始まる。さらに、k5v の終わりで改ページ位置が一致し、それ以降も m8r の終わりまで約 2 つ半の折丁で改行位置が一致している。

そのあとは改ページ位置が一致することはない。

第 3 表 h02 と h06 の内容と改ページ位置

| h02 | h06 | 内容と改ページ |
|---------|---------|--|
| a1r-b6r | a1r-b6r | 改ページ位置は異なるが文章は一致 |
| b6v-b7v | b6v | 順序が違う |
| b7v-c8v | b7r-c8r | 改ページ位置は異なるが文章は一致 |
| c1r | b8v-c1r | 挿絵。 Officium beate virginis marie 開始 |
| c1r-c8v | c1r-c8v | 改ページ位置は異なるが文章は一致 |
| d1r-h8v | d1r-h8v | 改ページ位置が一致 |
| i1r-i8r | i1r-i7r | 改ページ位置は異なるが文章は一致 |
| i8v | i7v-i8r | 挿絵。 Ad missam sancte marie introitus 開始 |
| i8r-k2v | i8r-k2r | 改ページ位置は異なるが文章は一致 |
| k3r | k2v-k3r | 挿絵。 Septem Psalmi Penitentiales 開始 |
| k3r-k5v | k3r-k5v | 改ページ位置は異なるが文章は一致 |
| k6r-m8r | k6r-m8r | 改ページ位置が一致 |
| m8v | m8v-n1r | 挿絵。 Officium mortuorum 開始 |
| m8v-r6v | n1r-r6r | 改ページ位置は異なるが文章は一致 |
| r7r | r6v-r7r | 挿絵。 Officium sancte crucis 開始 |
| r7r-s2v | r7r-s2r | 改ページ位置は異なるが文章は一致 |
| s3r | s2v-s3r | 挿絵。 Officium sancti spiritus 開始 |
| s3r-s6r | s3r-s6r | 改ページ位置は異なるが文章は一致 |
| s6v-s8v | s6v-s8v | 順序が違うか独自の内容 |

改ページ位置がほぼ同じ部分がページ数で数えると全体の 3 分の 1 もある。つまり、h02 の改ページ位置をもとにすることで h06 ではページ見積もりを容易にしている。

しかし、改ページ位置が一致する部分に挟ま

れている折丁*i*と折丁*k*では改ページ位置がずれている部分がある。これらの折丁に挿絵や新しい章の始まりがあるためである。2つの版の改ページ位置がほぼ同じ*h*の折丁と、改ページ位置が大きくずれる*i*の折丁、改ページ位置が最初はずれているが途中から一致する*k*の折丁では、改ページ位置を調整するために略字や縮約形の使い方を変えていると考えられる。そこで、それぞれの折丁にある略字や縮約形の数を数えた。

その結果が第4表と第5表である。これらの表では1行あたりの略字と縮約形の数をいくつかを数え、その行数をまとめた。そして、右に各折丁における略字と縮約形の数の合計と、折丁内の行数を示した。折丁*k*は改ページ位置がずれている*k5*までと、一致する*k6*以降で略字や縮約形の使い方異なると考えられるために分けた。

第4表 h02 の1行当たりの略字・縮約語の数

| | 1行当たりの略字・縮約語の数 | | | | | | | 計 | 行数 |
|--------------|----------------|-----|-----|----|----|---|---|-----|-----|
| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | |
| 折丁 <i>h</i> | 118 | 90 | 34 | 12 | 1 | 0 | 0 | 198 | 256 |
| 折丁 <i>i</i> | 96 | 89 | 44 | 14 | 6 | 0 | 0 | 243 | 250 |
| <i>k1-k5</i> | 38 | 57 | 31 | 20 | 8 | 1 | 0 | 216 | 155 |
| <i>k6-k8</i> | 27 | 40 | 21 | 7 | 1 | 0 | 0 | 107 | 96 |
| 合計 | 279 | 276 | 130 | 53 | 16 | 1 | 0 | 764 | 757 |

第5表 h06 の1行当たりの略字・縮約語の数

| | 1行当たりの略字・縮約語の数 | | | | | | | 計 | 行数 |
|--------------|----------------|-----|-----|----|----|---|---|------|-----|
| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | |
| 折丁 <i>h</i> | 78 | 101 | 56 | 18 | 3 | 0 | 0 | 279 | 256 |
| 折丁 <i>i</i> | 28 | 71 | 74 | 43 | 16 | 7 | 1 | 453 | 240 |
| <i>k1-k5</i> | 51 | 57 | 17 | 9 | 5 | 2 | 0 | 148 | 141 |
| <i>k6-k8</i> | 25 | 33 | 24 | 8 | 6 | 0 | 0 | 129 | 96 |
| 合計 | 182 | 262 | 171 | 78 | 30 | 9 | 1 | 1009 | 733 |

h02 と比べて *h06* は全体的に略字や縮約形の使用頻度が高い。全体で約1.3倍の違いがある。

その中でも特に *h06* の折丁*i* では略字や縮約形の使用回数が際立って多くなっており、*h02* の折丁*i* と比べて2倍弱も使っている。先に述べたとおり、*h06* のほうが文章を短いページにまとめているためだと考えられる。

一方、折丁*k*の前半では *h02* の方が多く略字や縮約形を使っている。*h02* と *h06* のいずれも同じ *k3r* から新しい章が始まるが、*h02* は開始ページに挿絵が含まれていてスペースを使うため、改ページ位置を合わせるためには文章を短くする必要がある。

このように、*h02* と *h06* ではページ見積もり

の労力を省くために、略字や縮約形の利用頻度を変えることによって、挿絵の大きさの違いに対応しつつ改ページの位置を調整している。

IV 結論

本研究の結果、Emerich が MI 印刷の際にしていた工夫が明らかになった。

まず、印刷時の組版では紙ならばハーフシートを、羊皮紙ならば小さなものを使っている。そして片面16ページ以上を同時に組んでおらず、多くの場合8折版と同じように版を組んでいる。8折版は15世紀末に多いサイズで、Emerich も8折版を24タイトル、MIの2倍印刷している。

内容は同じローマ式時書なので共通する部分も多いが、挿絵や標題紙を変えるだけでなく、順序を入れ替えたり、異なる内容を含んだりしている。単なる再生産というわけではない。

部分的に同じ折丁が使われていることも明らかになった。これは残部を活用していたか、組んだままの版を残していたのかはわからないが、時書はベストセラーなのでよく使う内容は印刷の手間を省いているのかもしれない。

ページ見積もりは過去に Emerich 自身が印刷した MI の時書を参考にしている。特に、挿絵のサイズが違う部分では、略字や縮約形に使用頻度を変えることで文章の長さを調整し、改ページ位置を整えていた。

引用文献

- McMurtrie, Douglas C. *Miniature Incunabula. The News Letters of the LXIVMOS*. Vol. 19, P.5-11.
- 西川和. “ミニアチュミア・インキュナブラの出版傾向”. 三田図書館・情報学会研究大会発表論文集2014年度. 東京, 2014-10-26, 三田図書館・情報学会, 2014, p.13-16.
- 西川和. “Johann Emerich のミニアチュミア・インキュナブラ出版”. 三田図書館・情報学会研究大会発表論文集2015年度. 東京, 2015-11-14, 三田図書館・情報学会, 2015, p.13-16.
- 西川和. “ヴェネツィアでのミニアチュミア・インキュナブラ印刷”. 三田図書館・情報学会研究大会発表論文集2016年度. 東京, 2016-10-29, 三田図書館・情報学会, 2016, p.17-20.
- Staatsbibliothek zu Berlin. *Gesamtkatalog der Wiegendrucke*. <http://www.gesamtkatalogderwiegendrucke.de/>(参照 2017-09-19).
- The British Library Board. *Incunabula Short Title Catalogue (ISTC)*. <http://www.bl.uk/catalogues/istc/>(参照 2017-09-19).
- British Museum. *Catalogue of Books Printed in The XVth Century Now in the British Museum, Trustees of the British Museum*, 1962-, 13vol.など
- Needham, P. A. *Gutenberg Bible used as printer's copy by Heinrich Eggstein in Strassburg, Ca. 1469*. *Transactions of the Cambridge Bibliographical Society*, 1986, Vol. 9, No. 1, p. 36-75.
- Agata, Mari. *The use of abbreviations in the Gutenberg Bible*. *藝文研究*. 2008, vol.95, p. 392-376.